

令和7年度 学校教育目標 「挑戦 つながる笑顔 丹那の子」

重点目標 「自ら学ぶ子」「発信する子」「やり抜く子」



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和7年5月発行

「くろたけの上を目指す 初春かな」(児童作)

校長 土屋 清隆

新年度がスタートし1ヶ月。それぞれの学年で、新たな挑戦に向け活動する元気な丹那っ子の姿がたくさん見られます。

冒頭の句は、渡邊陽太さん(6年生)の作品です。

1st missionである「玄岳遠足」に向けて最上級生としての決意も伝わってきます。

遠足に向けて、今年も下草刈りに、保護者・地域・CS委員の方々が参加してくださいました。また、昨年発足した「玄岳クラブ」の皆様が、先駆けて登山道整備や草刈りだけでなく、看板等を設置してくださいました。丹那小は、頼もしい応援団に支えられていることを実感します。

玄岳遠足のことになると、様々な場面で丹那小を卒業した方々から、子供の頃の遠足の思い出を聞かせていただくことがあります。

「低学年は、ドライブインがあったところで、芝滑りをしたなあ。中学年は、氷が池で、豚汁みたいなものをつくって食べたこともあったなあ。高学年だけが頂上まで登ったけれど、高学年になっても、頂上へ行くより芝滑りが人気だったなあ・・・。」

「玄岳から、箱根の方へ向かって、キャンプした時代もあったみたいだよ。テントや炊飯道具を担いで登ったって話を聞いたことがあるよ。」

また、以前紹介したように、大正時代には登山競走としてクラスごとのタイムを競っていたという回顧録も残っています。

時代とともに、玄岳への挑戦方法は変わってきているようですが、多くの世代の人が「自分たちの頃の玄岳遠足は…」と語り合えることが、一番の宝になっていると感じています。



4月19日(土)下草刈りありがとうございました。